

痴呆（怖い・恥ずかしい）から認知症（脳機能の障害による状態）へ

年齢と共に身体や精神にも機能障害が出てくるもので誰もがなる可能性があります。
個人差があり、〇〇歳になったらなるというものでもありません。
何かのきっかけで発症する場合があります。別の病気から発症する場合があります。

医学が進み病気と判断され、早期発見・早期ケアにより進行を遅らせることが可能です。
治療薬も開発されつつあります。

同じ話 自慢話 （また同じこと話している。さっきも聞きましたよ。いいかげんにして）

同じ物を何度も買って来る（また買って来て、どうするのこんなに、返品して来て）

「死にたい」という人に「そんなこと言うんじゃない」
（老人性うつの場合は逆効果）
（認知症の場合は「生きていてくれるだけうれしい、もっと長生きして」）

午前中は出来たけど午後には出来なくなる テッシュをポケットにいっぱい入れておく

汚れた下着を隠しておく 食べかけのお菓子をしまっておく 急に怒り出す

どんなに重い認知症であってもプライドが生きています。

- **記憶障害**：過去の出来事や日常のことを覚えにくくなります。
- **判断力の低下**：複雑な問題を解決する能力が減少します。
- **言語障害**：言葉を理解したり、話すことが難しくなります。
- **空間認識の障害**：道に迷ったり、物の位置を把握できなくなることがあります。
- **日常生活の遂行能力の低下**：自分で食事をする、着替える、入浴するなどの日常的な動作が難しくなります。

規則正しい生活と住み慣れた風景で生活することが予防につながります。

一人暮らしだから危険・認知症になりやすいは思い過ごしです。

いろり庵こぶしは自宅の一室というイメージで介護をすすめています。

基本原則は自宅で過ごす・暮らすこと。それが出来ない部分をフォローしています。

「長尾さん、これから体操を始めますが参加されますか？」

「長尾さん、少し体を動かすことが脳にも刺激となり、すっきりしますよ」

決して言ってはならない言葉

「〇〇さん、体動かさないと寝たきりになりますよ」（虐待行為）

実際の事例（帰りたい事例）

Aさんは朝起きると散歩するのが日課です。また昼や夕方の散歩もします。

その日は朝4時に目覚めて、いつものように散歩に行きましたが、瞬間的に道に迷い、自宅と似たような玄関を見つけました。しかし鍵が掛かっていたので、呼び鈴を何度か鳴らしました。玄関ドアを開けて出てきたのは知らない人でした。驚きのあまり逃げるように走り去りました。家を間違えたのです。なんとか自宅への道を見つけて帰りました。

間違えられた家の人は警察に通報し、Aさんの自宅へ調査に来ました。

対応した息子さんは、Aさんに「野良犬や熊が出るので外玄関にチェーンをしておきます」と話して、朝と夜遅くの散歩に制限をかけました。

Aさんは、こぶしに週3回通所で来ます。通所の日には昼食後に「ちょっと帰ります」としきりにスタッフへ訴えます。いつもの昼散歩が出来ないストレスで「帰ります」と言うので、スタッフが一緒に40分ほど散歩して来ると夕方まで落ち着きます。

Bさんはこぶしに週4回の通所で来ます。仲良しの方が、他の人とおしゃべりしたり、認知症で何度も同じ言葉を繰り返している他の人を見ると、「帰ります」と言い出して外靴を履いて玄関から出て行きます。Bさんの自宅は車で20分近くの場所です。

帰ろうとするBさんに理由を尋ねると「あの人、大っ嫌い。あの人がいるなら私帰る」と言うのです。スタッフはなだめますが、一時的で、また同じような光景があると、同じ行動をくり返します。嫉妬深い・好き嫌いのはっきりした性格があり、認知症によりその性格が顕著に現れる時があります。普段はにこやかに、おしゃべり好きの人です。

Cさんは絵を描いたりするのが好きです。他の人とあまりおしゃべりすることはありません。長期に宿泊している方で、レクレーションや食事が終わると自室へ戻っていきます。

時々、「私、帰らせていただきます」と言って、荷物の入ったカバンを持って玄関に向かっていきます。スタッフが理由を聞くと「もうここには居られません。居てはいけないと言われました」ということです。誰も言っていないので幻聴と思われれます。

Dさんは時々、自宅に電話をしたいと申し出てきます。電話子機を渡すと奥様と話をして、その内容が「自宅に帰りたい。探したい書類があるから行きたい」と申し出るのですが、ひきこもりの息子がいて、その見守りをしなければいけないので無理ですと毎回帰宅することを拒否されます。このような事が何回か続くと、スタッフの目を盗んで、こぶしから出ていきます。が、自宅への方向が曖昧なので迷って生協高森店まで行ったりします。

Eさんは夕方になると、通所の人たちが帰る光景を見るためか、イスから立ち上がろうとします。「どこかへいくのですか？」と尋ねると「実家に帰る」→「実家はどこですか？」→「白石、その裏行けばすぐだから」→「ここは仙台市、高森、白石まで遠いですよ」→「いや、すぐそこ曲がれば、近くだから」と強行に歩きだそうとします。スタッフと10分ほど歩いて、歩く体力が無いことを自覚して、こぶしに戻って来ます。